

# 岡山後楽園

きもっと知ろう!

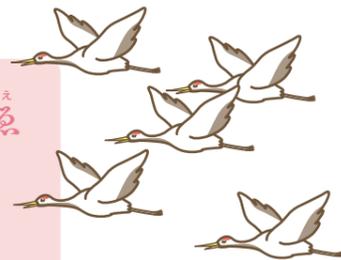
## タンチョウ編

タンチョウは、美しい姿や「瑞鳥」(おめでたいことがおこる前ぶれとされる鳥)として、昔から日本人に愛され、後楽園でも江戸時代からずっと大切に飼育されてきました。

後楽園ができてすぐのころ、庭をつくるよう命令した岡山藩の二代目のお殿さま池田綱政が後楽園で過ごしていると、野生のタンチョウが数羽、庭に飛んできました。それを見た綱政が「良いことがおこるしるしだ」ととてもよろこんで、つぎのような和歌を詠みました。

千世やへん 天飛ぶ鶴のうち群れて 庭におりる宿の行すゑ

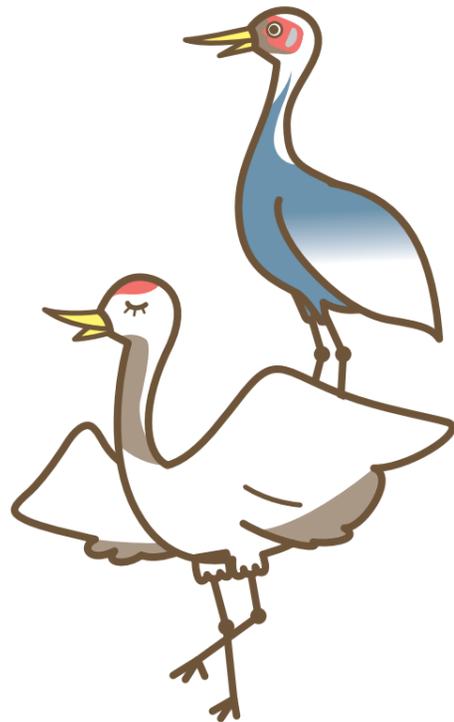
(空を飛んでいく鶴が、なんと私の庭に舞いおりてきたではないか。千年も生きるという鶴の長生きのように、私たち池田家も末永く栄えるとよいなあ)



## 明治時代から、後楽園の鶴が全国的に有名になってきました

明治17年(1884)に後楽園が池田家から岡山県にゆずられたときには、タンチョウとマナヅルが一羽ずついたようです。その後、後楽園が日本三公園(後に三名園)として有名になり、タンチョウも「後楽園の鶴」として全国的に知られるようになりました。

明治時代中期(1900年はじめごろ)、後楽園に近い現在の岡山市中区古京町に生まれた文筆家内田百閒(1889~1971)が「新年の回礼(あいさつまわり)の途中後楽園を通り抜ける様なときに、池の渚に遊んでいる鶴を見ると、本当に目出度い様な気がした。」(「鶴亀」より)と書いているように、そのころはタンチョウは園内に放し飼いにされて後楽園に来た人たちにとって、近くでふれあえる、親しみのある鳥だったようです。



## 江戸時代からいろいろな鶴が飼われていました



タンチョウの園内散策で空を舞う



タンチョウの園内散策



明治おわりごろの延養亭とタンチョウ



1945年ごろまでは放し飼いだっただんチョウ

後楽園では、江戸時代からタンチョウのほかにもマナヅル、ナベヅルなどいろいろな鶴を飼い、庭で遊ばせていました。三代目のお殿さま継政のときに書かれはじめた後楽園の記録「御後園諸事留帳」(※印参考)にそのことが書かれています。鶴が卵をうんだり、ヒナが生まれたり、鶴が死んだりしたことは、全部お殿さまにお知らせしました。

※御後園は、江戸時代の後楽園の名前で、1871年に後楽園と改められました。「御後園諸事留帳」は後楽園の管理や出来事などいろいろなことを書き留めた帳面のことで、岡山大学附属図書館の池田家文庫に残されています。

## 鶴鳴館や鶴見橋の命名



鶴鳴館前庭にあった飼育舎(正面の建物は戦災にあう前の延養亭北側)



戦災にあう前の鶴鳴館

明治17年(1884)に岡山県に後楽園がゆずられたのち、「大広間」とよばれていた大きな建物が、鶴の声を間近に聞くことができる建物であったことから、「鶴鳴館」と名前がつけられました。後楽園にわたる橋は、タンチョウにちなんで鶴見橋となりました。

# 戦後、しばらくのあいだ後楽園に鶴はいなくなりました



岡山市の中心にある後楽園は、第二次世界大戦の空襲により大きな被害を受けましたが、タンチョウは終戦後(1945年ごろ)も夫婦が一組だけ生き残り、荒れてしまった後楽園を歩く鶴の姿が人々をはげました。しかし、おもわぬ事故などにより、間もなくその2羽も死んでしまい、とうとう後楽園から鶴がいなくなりました。昭和30年(1955)、当時の中国科学院院長だった郭沫若氏が、かつて旧制第六高等学校で学んだ岡山を再び訪れたときに「後楽園に鶴がないのは寂しい」(※印参考)と、次の年、2羽のタンチョウを贈ってくださいました。そしてまた後楽園に美しいタンチョウがもどったのです。

※当時の気持ちを詠んだ郭沫若氏の漢詩の碑が鶴舎のそばにあります。



郭沫若詩碑



興安丸の船の中 1956年7月 (後楽園所蔵アルバムより)

中国から運んでくる途中の「チャメ」と「クロメ」

# 岡山県のタンチョウ飼育数は日本一!



郭沫若氏から贈られたタンチョウは目の色から「クロメ」「チャメ」と名付けられました。その後、北海道釧路市の協力で繁殖に成功。今では、タンチョウ飼育数が全国で一番多い県となりました。



## 岡山県のタンチョウ飼育数 [平成30年(2018)7月現在]

施設名	後楽園	自然保護センター	きびじつるの里	蒜山タンチョウの里	計
飼育数	8羽	40羽	12羽	2羽	62羽

## Q & A



Q1 ケージから出しても飛んで逃げまわらないのはどうして?

A 飼育員とタンチョウは日頃の世話や訓練を通してとても信頼あっています。タンチョウは、飼育員の声や姿を確認しながら飛んでいるため遠くに行くことはほとんどありません。



Q2 どうして頭が赤いの?

A 頭には毛がなく、ニワトリのトサカのような小さな肉のつぶつぶが集まっています。興奮したり相手を威嚇するときには真っ赤になって大きくなります。3月から4月にかけての恋の季節には、白い羽がより白く、頭がより赤くなり、もっとも美しくなります。



Q3 何を食べているの?

A タンチョウは雑食で、野生では魚や虫、穀物などを食べますが、中でもドジョウ、ミズ、バッタなどは特に大好きです。後楽園ではオキアミやアジ、鶴ベレット、トウモロコシなどを与えています。

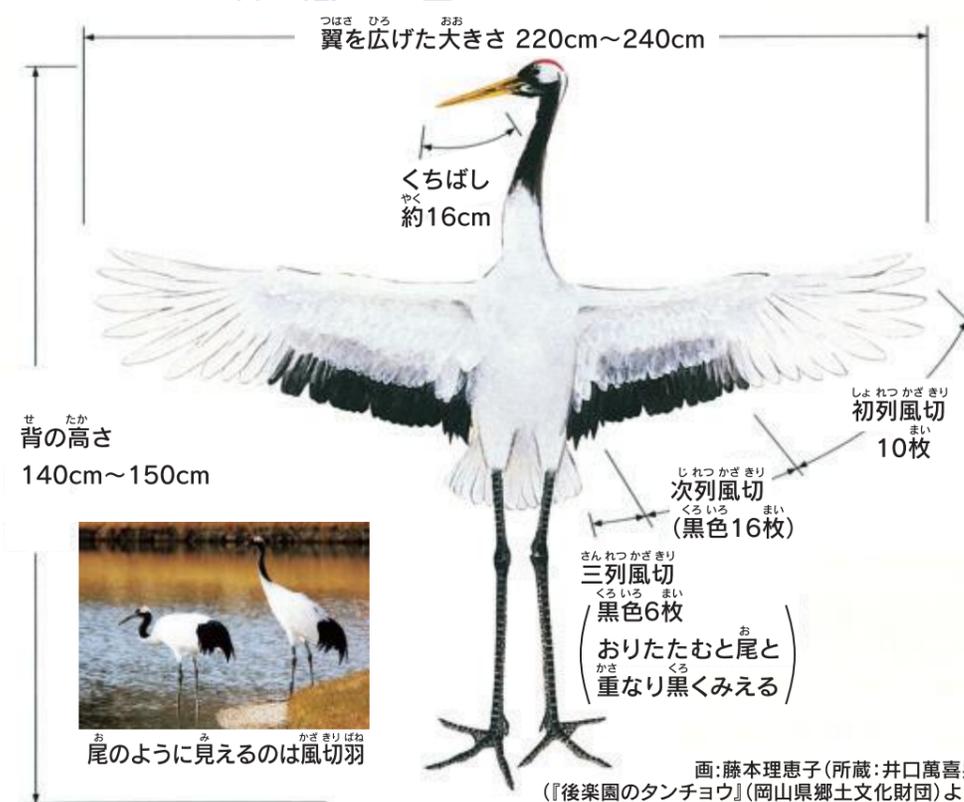


Q4 タンチョウは何年くらい生きるの?

A 後楽園では34年生きた例がありますが、平均は25年くらいです。

25ねん

## タンチョウが翼を広げた図



画:藤本理恵子(所蔵:井口萬喜男) 『後楽園のタンチョウ』(岡山県郷土文化財団)より